

# トキとともに守る自然



2008年9月25日 10時30分頃、新緑自然公園で放鳥行われました。

知ってほしい、学んでほしい、  
トキのこと、トキの島・佐渡のこと。



トキ交流会館・トキの野生復帰連絡協議会・佐渡トキファンクラブ

## はじめに

### ■トキ学習の子どもたちへ

この「トキとともに守る自然」パンフレットは、トキということのみならず、自然環境について幅広く作りました。トキは、むかしむかし日本全国の空を飛んでいました。ところが、人間が荒くしたり、自然環境が変わってしまい、トキはほとんど減ってしまいました。最後には、絶滅寸前(石川島)、佐渡島(新潟県)だけで生きていました。1980年代に、あと数羽しか見つからなくなったため、人工的に育てて、数を増やそうと多くの人ががんばりました。その後、中国で野生のトキが発見され、中国からトキを借りたり、もらったりして、日本でトキを増やしました。そして、2008年9月25日に、10羽のトキが佐渡の空に帰ってきました。最後に自然のトキが佐渡の空を飛んでから27年目のできごとです。その間、佐渡の農業者や市民、たくさんのボランティアが、トキのためにエサ場をつつたり、森や田んぼを守って、生きものがいっせい生きられるようがんばりました。今も、トキのためにがんばっています。たくさん子どもたちも、全国からやってきて、トキのためにボランティアをしました。ぜひ、みなさんこのパンフレットを読んで、トキのことを学習し、トキや生きもののために協力してください。

### ■大人の皆さんへ

「トキとともに守る自然」パンフレットは、2008年9月25日のトキ放鳥を受けて、これまでのトキのしおりを全面改訂したものです。「トキのしおり」では、トキの野生復帰に向けた各種情報のことや、森林整備、エサ場作り、生物多様性のことについて、主に小学校高学年向けの理解学習に重点を置いていました。今回、全面改訂にあたっては、小学校高学年以上向けの理解学習用資料を前半に渡し、後半はトキの繁殖、生態、地域社会や保全団体等による野生復帰の取り組みの詳細について参考資料としました。子どもたちの質問に答えるための資料ともなりますので活用ください。トキの野生復帰は、「2015年に100羽が野生下での定着を目標」(環境省)としています。今後、佐渡島内の地域社会では、トキと人とが共生できる社会をつくるために、森林整備、ビオトープ整備をはじめとする様々な課題に取り組む必要があります。日本の他の農山漁村と同様に、高齢化が進む中、農林水産業者や日々の生活を営みながらの取り組みが継続します。ぜひ、佐渡の物産、観光等にお力添えをいただき、トキの野生復帰へのご協力を願いますよう心よりお願い申し上げます。

### トキ年表

明治41年	「狩猟に関する規則」の保護鳥(30種)にトキが加えられる。
大正11年	「日本鳥類目録」で学名 <i>Nipponia nippon</i> を採用、以降定着。
大正14年	「新潟県天然動物」で「保護のための其の類を絶滅せしめらるる」を絶滅せしめらるる。
昭和6年	牧原金沢村(保金井)で2羽のトキが確認される。
昭和9年	トキ、天然記念物に指定。
昭和27年	トキ、特別天然記念物に指定。
昭和34年	佐渡島村山部郡会でトキの保護を開始。
	4月 佐渡トキ愛護会を設立。
	8月 佐渡島愛護会を解散、佐渡トキ保護会を設立。
昭和35年	トキ、国際保護鳥に指定。
昭和42年	田新緑村(現水原)にトキ保護センターを開設し、「フク」(♀)、「ヒロ」の飼育開始。
昭和43年	3月「トキ」が宇治金太郎氏に譲渡され、トキ保護センターで飼育開始。
昭和46年	4月 環境省トキ愛護推進員が発表。
昭和51年	12月トキ保護村愛護委員会が発表。
昭和56年	1月 野生トキ会(前身)を一身結成。
昭和57年	3月 国営小佐渡島新緑自然公園区画決定。
昭和60年	10月「カノコ」を中国から借入(平成元年11月まで)。
平成2年	3月「フク」を北京動物園に貸出(平成4年9月まで)。
平成5年	2月 トキを種の保存法の国内希少野生動物種に指定。
	11月 佐渡島村長選に佐渡トキ保護センター参事。
平成10年	11月 中国の公民館(国家主席が9年へのベトナム参事)。
平成11年	1月 30日「友友」(♀)のペアが誕生。
	5月 21日「愛護」誕生。
平成12年	4月「新緑」(♀)誕生。
	11月14日「奥島」を中国から「愛護」のペアのペアで借入して帰国。
平成19年	4月 佐渡島新緑自然公園区画決定。
	7月 トキの野生復帰訓練を開始。
平成20年	9月 放鳥実施。

トキの野生復帰連絡協議会 会長 高野毅

## トキとの共生ルール

### 1 優しく静かに見守りましょう

トキを驚かせないように、優しく静かに見守りましょう。トキを見るときは、双眼鏡などで遠くから静かに観察しましょう。

### 2 トキに近づけをしないようにしましょう

トキは野生動物です。放鳥されたトキは自分で餌をとるようになっているので、エサをあげるのではなく、エサが豊富な自然環境をつくっていきましょう。

### 3 トキを観察するときは地域に迷惑をけないようにしましょう

トキは農地周辺の水田、草地、沢などで餌をとり、木の上に乗ります。観察するときは、無断で私有地や農地に立ち入りしないでください。また、農道や林道に駐車して通行の妨げにならないようにしましょう。

### ご注意ください！ 種の保存法

トキは種の保存法で、個体の捕獲や譲渡等が規制されています。例えば、拾ったトキの羽根を他人に譲り渡す等の行為は法律違反となりますので、ご注意ください。

### トキを見かけたらご連絡を

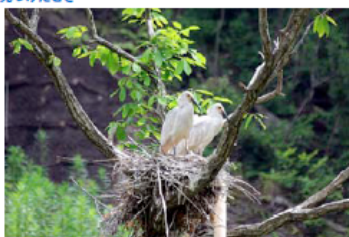
トキを見かけたら、いつ、どこで、何羽程度か、何をしていたかをトキ交流会館までお知らせください。また、動けなくなっているトキを発見した際は、専門家が取巻に急行しますので、決して触らずに、そのままとし、トキ交流会館までお知らせください(受付時間外は佐渡自然保護官事務所までお知らせください)。

### ■トキの自家情報等の連絡、トキについてのご相談

トキ交流会館  
電話受付 8:30~17:00 0259-24-6040  
FAX受付 24時間受付 0259-24-6041

### ■受付時間外で動けないトキを見つけたとき

連絡先 佐渡自然保護官事務所  
090-2324-4019



## トキってどんな鳥



### ■大きくて美しい羽の鳥

トキは体をまっすぐに伸ばした時のくちばしの先から尾羽の先まで約75cm、羽を広げると約140cmの大きな鳥です。コウノトリの仲間ですが、全身はまっ白ですが、羽を広げると「トキ色」という赤い色をしています。羽は赤く、長く、黒い色をしていて、トキ、カニ、カエル、サワガタなどを食べます。エサは田んぼや農道で探し、近くの森にねぐらをつけます。

佐渡トキ保護センターのユウユウ

### ■神のよいカッパル

トキは、見通しのよい高い木の上に巣をつけます。オスとメスは1羽ずつカッパルになり、くちばしを使った羽づくろいや小枝をくちばしでわたすなどとても仲良しです。卵は、3月下旬頃から産みます。カッパルで卵を温め、約28日でヒナが孵ります。親鳥はその後40日から90日ほど世話をします。巣立ってから、2~3年ほどで大人になって卵を産みます。

ユウユウとイメのカッパルが仲良く



### ■トキは人里の近くにいた

トキは、むかし日本中の里山にいました。トキは人が暮らす里山の近くが大好きです。昔の人たちは田んぼや畑で米や野菜を育てていました。また、雑木林を手入れして木材や薪(まき)をとっていました。そのように人間が守ってきた里山は、トキのエサがたっぷりあって、ねぐらもつくりやすかったからです。でも、エサを探して田んぼの稲をふみつけることもあり「害鳥」として遠い私われることもありました。

### ■トキの名前

トキは漢字で「朱鷺」と書きます。朱(赤色)の鷺(サギ)という意味ですが、サギとは別の種類の鳥です。学名は、ニッポンニッポン(Nipponia nippon)と付けられました。江戸時代の終わりごろに日本に来たドイツ医師の学者シムルトが、トキやニッポンオオカミなどの標本をオランダのライデン(博物館)に送りました。そして、日本のシムルトのような鳥だとして命名されました。ちなみに英語では、ジャコーンズ・クレストド・アイビス(Japanese Crested Ibis)といいます。これは、日本の冠羽のあるトキという意味です。佐渡では昔から「ドウ」と呼んでいました。日本では奈良時代頃から「ツキ」や「タウ」とも呼ばれていました。



**トキが日本からいなくなった日**  
トキは江戸時代が終わる頃まで日本中どこにでもいました。明治時代になって、美しい羽をわらわった狩猟がさかんになり、乱獲されてしまいました。その後、日本では工業化が進み田んぼが減ったり、自然破壊や環境汚染もあってどんどん数が減りました。最後は石川鳥獣害半島と新潟県佐渡島だけになり、1981年に佐渡にいた最後の5羽を絶滅から救うために保護したため、日本の空からトキの姿は消えました。

**世界のトキ**  
トキは、かつて日本、ロシア、朝鮮半島、中国に生息していました。しかし、日本と同様に19世紀以降トキの数は減り、20世紀のなかにはほぼすべて絶滅したと考えられていました。ところが、中国の陝西省洋県で1980年代に再発見され、野生の状態で見守られています。

**トキの生態Q&A**

Q トキは1日にどのくらい食べるの？  
トキは、毎日体重の10分の1のエサを食べます。トキの体重は成鳥で20kgくらい、だから毎日200gのドジョウやカエル、サワガニ、バッタなどを食べます。

Q オスメスの区別はどうするの？  
トキはオスメス草食です。オスは平均1.8kg、メスは1.6kgほどは少し重めですが、肉眼ではオスメスを区別することがむづかしいです。もちろん、卵を産むのはメスしかできません。繁殖は大きな鳥類ですが、産めるのはアヒルが交代で、どちらか一方がオスが多く負担します。早く交代できない場合はオスが抱卵します。卵を外敵から守るのはオスの役です。

Q トキの寿命は？  
まだはっきりとはわかっていません。野生では推定で10年から15年程度と推定されています。飼育下ではキンが36子までを生まれました。

Q トキはいつも白い？  
昔は白く黒い(灰色)のトキがいたと思われていました。でも、それは同じトキが季節によって変身していたのです。もともと羽が白いキは、卵を産む(産卵)後、だんだん黒くなるに、黒くなる黒い色の卵のようものを出して、それを産む卵に塗りつけて産む卵が白く見えます。そうやって、自分の卵の卵を守っているのです。

佐渡島のトキ(佐渡トキ保護センターにて)

**トキを守ろうとした佐渡の人たち**

**トキを調べた 佐藤孝雄さん**



佐渡で生まれ高校の先生をしていた佐藤孝雄さんは、1946年からトキのことを調べはじめました。1947年11月にはじめて生きたトキに出会いました。それから、毎日、暑い日も寒い日も山に上ってトキを探し、遠くから観察を続けました。そして、トキが絶滅しかかっていることやトキを守るために佐渡の人々や新潟県、国などに呼びかけました。佐藤孝雄さんは、30年以上ものあいだ自然のなかでトキがどんな暮らしをしているかを調べました。佐藤さんの調査でトキを守る呼びかけがなかったら、トキのことをわくわく知らないままに、トキは絶滅していたかもしれません。(写真は子どもたちとトキのことを説明する佐藤さん)

**トキにエサをあげた 高野さん親子**

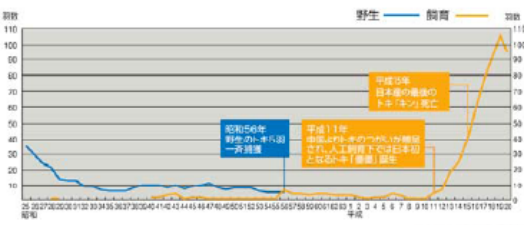
高野高治さんは、佐渡の生輝(はえつばき)地区という山の中で農業をしていました。トキが田んぼに来るおなをすかしているんだから、遠い山つちやいかにいって、仕事をやめ、遠くで見守ったり、トキがエサを食べられるように、いつも田んぼに水をいれてドジョウを育てていました。高野高治さんは、トキがトキ保護センターで保護されたあとも、トキのためにドジョウを育てて、毎日歩いて山をこえ、夏も冬もたくさんドジョウを運んでいました。高野毅(たけし)さんは、高治さんの息子で、子どものころからお父さんの手伝いをしていました。今もたくさんお父さんの気持ちを思いながら、いつでもトキが空を飛ぶよう田んぼやトキのエサ場をつくらうとみんなに呼びかけています。(写真は高野親子、小学校の生物観察)



**絶滅後のトキ、キンちゃんの友だち 宇治金太郎さん**

1967年8月に佐渡の真野町に野生のトキが1羽飛んできました。トキ観察員の宇治金太郎さんは、毎日エサを持ってトキが飛んでくるのを待ちました。やがてトキは宇治さんを信用するようになりました。そして、世界ではじめて野生のトキが人間の手からエサを食べるようになったのです。1968年、トキの保護と数を増やすために立ち上がったトキ保護センターに属するよう頼まれます。宇治金太郎さんは、野生のままがいいのかもしれないと、なやみながらも、トキを保護しました。このトキは、宇治金太郎さんの名前をとって「キン」と名付けられました。その後、1981年に最後の5羽の野生トキが保護されましたが、みんなキンちゃんより先に死んでしまいました。キンちゃんは、日本の野生で生まれた最後のトキです。2003年に36歳で死にました。人間でいうと100歳をこえる年です。宇治さんは、1984年に亡くなるまで、日本生まれの最後のトキ、キンちゃん、とトキの将来のことを思い続けました。(写真は、野生のキンちゃんにエサをあげる宇治金太郎さん)

**トキを増やすための努力**



**トキ保護センターとキンちゃん**  
1967年、佐渡市清水平(旧新穂村)にトキ保護センターができました。ここでは、野生のトキを保護し、増やすための研究が続けられました。センターでは、近世整備をはじめ、高野高治さんなど多くの人がいっしょけんめい努力しましたが、トキは1羽、また1羽と死んでしまい、子どもは生まれませんでした。1985年からは中国に生息していたトキを捕獲して、ペアリング(つがいづくり)をしました。うまくいきませんでした。1993年、今の佐渡トキ保護センターができました。1995年、オスのメドリが死に、日本の野生生まれのトキはおばあちゃんのキンだけになりました。

**中国でのトキの発見**  
1981年に中国でみつかったトキは、日本のトキと同じ種類でした。日本のトキと中国のトキの遺伝子は99.935%も一緒で、ちがうのはほんの0.065%。まったく同じ種類だと確認されています。トキはコウノトリの仲間ですが、トキはコウノトリの遺伝子は85%が同じで、ちがいは15%もあります。

**中国の成功と日本で増えはじめたトキ**  
1992年、中国でトキの人工ふ化が成功します。中国の野生トキを守る活動は日本の協力もあって広がりました。そして、中国の野生トキは少しずつ数がふえはじめました。1998年、日本と中国の友好のしるしとして、中国からトキのつがい(オスメス)のヨウコウとヤンヤンが贈られました。佐渡トキ保護センターでは1999年に最初のトキが生まれます。その後は、毎年、卵がかえっています。中国からさらにトキが贈られたり、日本で生まれたトキを中国に戻したりして、日本と中国が協力してトキが増えていくようになっています。佐渡トキ保護センターで育てて中のつがいとヒナ

**トキを佐渡の空に迎えるための努力**

**トキが自然に帰るために**

佐渡トキ保護センターでトキの数が毎年増えるようになって、佐渡の人たちは、トキが佐渡の空を自由に飛ぶための準備をはじめました。トキが自然の中で暮らす(野生復帰)ためには、安心して暮らせるねぐらや巣づくりができる森や木が必要です。エサとなるドジョウやカエル、バッタなどがたくさん生かされる水田や草むらも大切です。肉食動物のトキが生かすためには、トキ以外の生きものがたくさんいる豊かな自然を守ることが一番大事です。これを「生物多様性」といいます。

**トキとともに暮らせる佐渡をつくらう**

**ビオトープづくり**  
昔は、水の多い田んぼや小さな溜池(ため池)がたくさんありました。トキのエサの、ドジョウやタニシ、カエル、サワガニ、バッタがたくさんいました。今の日本ではトキがたがふり食べるだけのエサは自然の中にありません。だから、人間がトキのエサ場をつつてエサを増やす必要があります。エサ場は、田んぼやビオトープです。農家の人たちがトキのエサが減らないような農業の技術にとりかかっています。冬にエサのドジョウが生かされるよう田んぼに水を溜らしたり、山の上で飛べなくなった田んぼをよみがえらせています。かつてトキが飛んでいた集落の人たちや、ボランティアの人たちも、農家の手伝いをしたり、休んでいる田んぼを借りてエサがたがくようなビオトープをつくらうとしています。

**森を守る、育てる**  
トキは、森の中の高い木の上に巣をつきます。遠くが見えるから安心です。ところが、トキが巣をつくる松やクリ、トングリの木が少なくなっています。森を守り、育てることが必要です。手入れしなくなった森は、すぐに荒れていきます。だから、森を切り倒したり、下草を刈り取ったり、植林するボランティアが、林業家や研究者に教わりながらはたらいています。冬は雪におおわれるので、春から秋まで、夏の暑いときもがんばっています。

佐渡の小学校や全国の小中学校、高校、大学のみなさん、ボランティアや体験学習、修学旅行などの機会を利用して、ビオトープ作り、エサ場作りや植林などの活動をしています。





## トキが佐渡の空を舞った！

### ■野生で生きること

佐渡トキ保護センターで生まれ、育ったトキは、本当の自然（野生）を知りません。野生では、自分でエサやねぐらを探したり、雷やへびなどヒナや雛をわらう動物を避けたり、危険がせまったら飛んで逃げたりして生きなければなりません。自然は生きにくいのです。人間がいつでもエサをあげたり、守ったりしても、本当の自然の中で生きていくにはなりません。トキが野生復帰するためには、トキに自然の中で生きる力をつける必要があります。（写真は、新緑中のトキ）



### ■野生復帰ステーション

2007年、佐渡市新穂正明寺地区の山の中に、野生復帰ステーションが完成しました。本当の自然にできるだけ近づけて、長く飛んだり、自分でエサを探したり、子育てをします。高さが15メートル、幅が50メートル、奥が80メートルのとても広い「籠化ケージ」では、2007年から15羽の若いトキが訓練しました。

このほか、オスとメスのカップルが子育てをするための「繁殖ケージ」があります。



### ■トキの訓練

トキの訓練といっても、トキに「こうしなさい」と教えるわけではありません。自分たちで長く飛ぶことや、エサを探ることやおぼえしかありません。最初は少し飛んでもすぐに疲れたり、エサをうまくとれませんが、やがて力強く飛ぶようになります。

時々、籠化ケージの中に人が入って田植えや農作業をして、トキの様子をみたりします。もちろん、野生復帰ステーションではたらく人たちが毎日ずっとトキの行動を観察しています。

2008年3月、みんながひっくり返るまでがありました。籠化ケージで訓練していた若いトキがカップルをつつて、自分たちで巣をこしらえ、雛を産んだのです。カップルは交代で雛を温め、やがてヒナが生まれました。2羽のヒナが、2008年6月に巣立ちました。佐渡トキ保護センターで生まれたトキたちは、人間が思っていた以上に、すぐに自然に慣れたのです。（写真は、籠化ケージで生まれたヒナと雛）

### ■トキが佐渡の空を飛んだ！

2008年9月、たくさんの人たちが見守るなかで、10羽のトキが佐渡の空に放されました。トキは最初はとまどっているようでしたが、やがて力強く飛ばしました。このトキたちは、これから人とトキが一線！暮らしのためにどうすればいいかを教えてくれるはずです。



（写真：環境省 2008年2月9日）

- 9 -

## 野生復帰ははじまったばかり

### ■私たちができること

野生のトキは、田んぼや小川、家の近くに飛んでくるとは思いません。でも、人間がおどかしたりすると、エサの少ない山の奥に逃げてしまい、死んでしまうかもしれません。トキが安心して暮らせるようになるためには、佐渡の農家や佐渡で暮らす人たちが、トキといっしょに生きることを決心しなければなりません。また、トキを見に来る観光客の人たちや、トキのエサ場や雛を守り育てるボランティアの人たちの協力もかかせません。みなさんも、ぜひ、トキと人間がいっしょに安心して暮らせるよう、手伝ってください。

### ■トキと佐渡のことを学ぶ

トキはどうして少なくなったのか、どうやってトキと人が共に暮らせる自然をとりもどせるのか、そのことを考えてください。トキを野生にかえすために、どんな人たちが、どんな活動をしているのかを見て、知って、話を聞いてください。図書館やインターネットで調べたり、佐渡でトキ博士に話を聞き、トキを案内して、「トキ学習」をしてください。

### ■ボランティア活動に参加したり、体験学習する

佐渡では、1年間を通じて、いろいろな地区や活動団体が、様々な取り組みをしています。環境にやさしい田んぼづくり、ビオトープづくり、植林、下草刈り、体験学習、生きもの観察など、子どもから大人までいろいろなボランティア活動があります。（カマやコギリを使うので、指導者といっしょに安全に暮らさなければなりません）

### ■ボランティアリーダーになる

トキのことや森のこと、田んぼや動物、植物のことをたくさん勉強して、ビオトープの作り方や森の手入れの方法をいっしょに活動しながら教えるのがボランティアリーダーです。佐渡ではたらく市民グループや農業者グループなどがボランティア活動を行っています。いろいろなボランティア活動に参加して、ぜひ、ボランティアリーダーになってください。

### ■食べるだけでもボランティア

ドジョウをたくさん育てるために、農薬を減らしたり、田んぼの一部をドジョウのために雛を捕えなかったりする農家もいます。そういうお米を買って食べるだけでも、ボランティアになります。お米だけでなく、環境を守る農家がつくる野菜や果物を選んで買ってください。

### ■みんなに伝えよう

汗を流して手伝う人、遠くから「がんばって」と手紙を書く人、寄付をする人、みんなボランティアです。ひとりひとりできることを考え、行動することで、自然が豊かになり、トキが飛ぶ喜びます。みんなが学んだことを、たくさんの人に伝えてください。

### ■トキを通じた環境学習

全国から修学旅行や体験学習でトキ交流館に来る小中学校の数は毎年増えています。地元の保全活動団体や地域の農家といっしょに生きもの観察やビオトープづくりをしたり、トキ博士の話を聞くトキ学習を行っています。泥んこになるのは生まれてはじめてという子どももいて、最初はとまどっている子どもたちも終わるころにはいきいきとしています。トキの野生復帰の活動を通して、環境教育や自然体験の場づくりにもなっています。

佐渡だけでなく、日本中でエサ場やビオトープをつくりましょう。いつか、日本中でトキが見られる日がきます。トキ交流館では、ボランティア希望者（グループ）にエサ場づくりや森の手入れなどの指導、案内を行っています。高校や大学のボランティア単位制度や企業のCSR（社会貢献活動）でのボランティア活動も協力しています。

- 10 -

## ■もっと詳しく知りたい人に

### ■佐渡トキファンクラブ

パソコンや携帯電話のメールアドレスを登録するだけで、佐渡トキファンクラブのメンバーになります（入会無料）。メンバーには、月1回、トキの最新情報やボランティア募集、イベント案内が送られるほか、プレゼント企画などもあります。佐渡トキファンクラブメンバーになって、トキの野生復帰活動を応援してください。

<http://toki-sado.jp/fanclub/> ヘアアクセス！



### ■トキに関する施設

トキの森公園 佐渡トキ保護センターに隣接している広い公園です。日本でたどつとこだけ、生きたトキを直接見ることができます。資料展示館には、トキの骨格標本やライブ映像、ビデオ映像、世界のトキの資料などが展示されています。佐渡市新穂長383-2 電話0259-22-4123 8:30~16:30まで、12月から3月までは月曜日と年末年始が休館日となります。 環境保全協力費 大人200円、小中学生100円。

### ■佐渡トキ保護センター トキの研究、保護、飼育施設です。一般の見学はできませんが、トキの森公園から直接見ることが出来ます。

<http://www4.ocn.ne.jp/~tobis/>

### ■トキ野生復帰ステーション トキが野生で生きるために必要な繁殖、エサとり、飛行、集団生活などを訓練するための施設です。一般の見学はできませんが、外の観察棟からモニターでトキの訓練の様子を見ることが出来ます。

### ■トキ交流館 トキのボランティア活動や学習活動のセンターで、宿泊もできます。トキガイドによる見学ツアー（活劇）、体験学習の指導やボランティア活動団体の紹介、ホールや会議室でのイベント等が行われています。

佐渡市新穂長1101-1

電話0259-24-6040

メール: info@toki-house.jp

詳細は、佐渡トキファンクラブHPをご覧ください

<http://toki-sado.jp/fanclub/>



- 11 -



写真提供：環境省、佐渡トキ保護センター、佐渡トキファンクラブ、トキ交流館。

### トキとともに守る自然 (トキ学習と野生復帰活動の平引き)

編集・発行 トキの野生復帰連絡協議会

協力 トキ交流館・佐渡トキファンクラブ

〒952-0103新潟県佐渡市新穂長1101-10(トキ交流館)

電話0259-24-6040 FAX0259-24-6041

info@toki-house.jp

<http://toki-sado.jp/fanclub/>

写真提供：環境省、佐渡トキ保護センター、佐渡トキファンクラブ、トキ交流館。

平成20年度サントリー世界自然基金の助成を受けて作成しました。

2008.10 ver.01

- 12 -